

令和2年度 さいたま市立本太中学校 学校関係者評価書

さいたま市立本太中学校

学校関係者評価委員長 富永 恒一



1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 11名
- | | | | | | |
|--------|----|-------|----|--------|----|
| 元校長 | 1名 | 自治会長 | 1名 | 青少年育成会 | 3名 |
| 主任児童委員 | 1名 | 小学校長 | 2名 | 公民館長 | 1名 |
| 前PTA会長 | 1名 | PTA会長 | 1名 | | |
- (2) 実施回数 3回(7月・11月・2月)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- 校長からの学校関係者評価委員への今年度の実践報告(コミュニティースクール実施に向けて、学校の働き方改革、タブレットを活用した授業の推進等)は、学校を変えるという強い意志を感じることができた。働き方改革に関しては課題が残る状況であるものの、大変意義のある会合であったと感じる。来年度以降の一層の変革に期待している。
- 「コミュニティースクール実施校」として具体的な手立てを講じる必要性を強く感じた。今年度はコロナ蔓延により地域行事等を、一切催すことができず遺憾であった。来年度は生徒主体の活動を再開させ、地域の協力を得ながら、地域の活性につなげていきたい。
- 「STEAMS教育推進校」として全ての授業でタブレットを有効に活用していることがわかる。昨年度と比較してICTの環境も大きく改善されている。市内の学校を牽引する立場として、さらなる推進をお願いしたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 今年度は保護者、青少年育成団体、地域自治会長等へ具体的な説明等を含め、コミュニティースクールを本格実施するために、複数の手立てについて熟議を重ねることができた。学校を核としたスクールコミュニティの確立を図った。来年度も学校、地域が共にメリットを感じるコミュニティースクールを目指していきたい。
- STEAMS教育、研究校として探究的・教科横断的な学習、発展的学習を実現するためのカリキュラム・マネジメントを工夫していく。そのためにタブレットを中心としたICT機器をより一層活用し、先進校として市内外へ情報を発信していきたい。
- 働き方改革に関して、現在の業務量を教員のみで行うことが続く限り限界もある。来年度も部活動等、部活動指導員や地域団体に一部を担ってもらうことで推進を図っていく。さらに定時退勤日の設定、計画的な年次有給休暇の取得を推奨しつつ、職員の心身の健康に留意していきたい。

さいたま市立本太中学校長 加藤 明良

